

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2024年11月18日
第47号

バレー部春高全道ベスト16 3年生7名が引退

11月11日から札幌きたえーるで第77回全日本バレーボール高等学校選手権大会北海道代表決定戦（春の高校バレー）が開催され、本校は2回戦で留萌を2-0で下し、3回戦で帯広南商業に0-2で敗退、ベスト16となった。3年生7名の引退試合となった。



上はバレー部全員。下は中村先生を囲む3年生。



ベスト8を
目指して
主将の森あ
ずささんの談

話。「留萌戦は1セット目（25-19）の入り出しが悪く、自分たちのバレーができなかった。もつと余裕で勝てるのにミスで点を取られた。2セット目（25-12）は最初にサーブが決まり、その流れで自分たちのペースでプレーでき、次の試合につながる良い準備ができた。帯広南商業戦はこの試合に勝てば、ベスト8なので、気合が入っていた。



コート上で声を掛け合う

だが、出だしから相手のペースに飲まれ、1セット目10点、2セット目7点とかなかなか点数をとることができずに終わってしまった。最後は「ここまで離されたら、悔いはない。最後に南商と試合できて楽しかった」と思った。南商は今大会ベスト4入りした。

まだまだ中村先生とバレーをしたかった

全道ベスト8という目標は達成できなかったけれど、素敵な仲間と先生、そしていろいろな人からの応援が心強く、最後まで戦うことができた。感謝の思いでいっぱいです。

これまでいろいろなことがあったが、みんなで乗り越え、最高のチームができた。まだまだ、先生とバレーをしたかった。」

12月1週目は新人戦だ。新チームの活躍にも期待したい。

ポランティア全道大会
アイヌ民族の助け合い精神
11月7日・8日、札幌市のかでる2・7で高文連第21回全道高等学校ポランティア研究大会が開催され、3名が参加した。

全体講演は本田優子氏（札幌大学教授）が『アイヌ民族の歴史と文化』助け合いの精神が『くくる社会』と題して話された。例えばきのこを採取するかごの話。植物で編んだかごには隙間があり、そこからきのこの胞子が出ることで、自然とも「分け合う」ことができるという。そういうことが自然にできるアイヌ文化の魅力を知った。

分科会15分科会の中の第1分科会「構成的グループエンカウンター」自己理解と他者理解の魅力を体験（講師・スクールカウンセラー 畠山貴代志氏）、第2分科会「絵本を題材に、足元の感動を一緒に」（講師・絵本セラピスト協会認定 絵本セラピスト 長木けい氏）に参加した。

第1分科会には三影はつかさん、山谷愛花さんが参加した。コロナ禍により激減した対面コミュニケーションを円滑にし、本音で話せるエクササイズをした。SNSなどの非対面コミュニケーションの急増で、今まで以上に人間関係にストレスを感じる高校生が少なくないが、本音の交流や感情交流をグループで取り組み、初対面でもできる親密な人間関係づくりの手法を体験した。「今後活かせる内容だった」という。第2分科会には瀧上萌友さんが参加した。絵本の世界から人を元気にすること、優しさやボランティアについて認識の幅を広げる内容だった。